

# モンゴルといふ国から考える国際社会の平和と安定（第四回）



元モンゴル国駐箇特命全権大使  
中央大学特任教授、千葉工大特別教授　清水　武則

## 中ハーバルの Japan Festival

本年は日本とモンゴルとの間に外交関係が樹立されて五〇周年の記念すべき年にあた



初代モンゴル大統領と筆者（右）

り、コロナ感染症と闘いながらも各地でさまざまな記念行事が行われました。最大のイベントとなつたのは八月二〇日、二一日に首都ウランバートル市内で開催されたJapan Festivalで、今年は過去最高の二万人を超える参加者がありました。実は、このフェスティバルの起源は、私が大使在任中にモンゴル国立大学などの若者たちと企画した日本ポップカルチャー・フェスティバルでした。

若者が日本の文化に关心をもつていて、大使館と一緒にやれ

ばより多くの若者にアクトリーちでありますと判断して、次の年から共催することになり、Japan Festivalとして始めたのです。アニメやコスプレショーのほかに、けん玉、剣道、空手など日本文化の紹介が加わり、その後、国際観光振興会の財政的支援も得ながら、規模が拡大し、現在は大使館の手を離れて、モンゴルに滞在する日本人有志によつて実行され、規模も飛躍的に拡大しました。日本からは若手のポップグループが参加するまでに発展しました。

私は、今年のJapan Festivalに「五〇年後の恋の季節」と題して、今陽子さんの公演を

企画実施しました。「恋の季節」は一九六八年にピンキーとキラーズがリリースした曲で、この世代の人であれば知らない人はいないぐらい有名な曲です。モンゴルと外交関係を結んだのは一九七二年。この曲と同名の映画がロシアで放映され、超人気となり、モンゴルにも七〇年代初めに入つてきました。当時、資本主義国の映画を見せるというのは極めて異例で、背後にはモンゴル政府が、ロシアで解禁された「恋の季節」を通じて、これから外交関係を開く日本についての関心を国民の間に広めておこうという意図があつたものと思われます。司馬遼



太郎さんも一九七〇年代にウランバートルのホテルでモンゴルの若者たちが「恋の季節」の曲をバックに踊りまくつていたのを見て驚いたそうです。「五〇年後の恋の季節」は、結果から申し上げると大成功に終わりました。会場に入れないと人が約三五〇人もいるくらい関心を集め、七〇歳といえ、全く衰えを知らない今陽子さんの歌声とみごとなパフォーマンスで、最後は総立

ちで、みんなで「恋の季節」を歌つて盛り上りました。

私は、五〇周年記念事業の日本側実行委員会の事務局長として、八月二三日にモンゴル外務省講堂で「日本・モンゴル大クリルタイ」（モンゴル語で「集まる」を意味する）も実施しました。外務大臣、両国の国会議員、友好諸団体代表、学生の代表等の発表はいずれも、これから両国関係をどう発展させていくべきかをテーマにしていました。今後の人材育成への協力の継続や若い世代の相互理解の必要性をシェアして終わりました。

さて、コロナをようやく克服できそうになつきましたが、ロシアのウクライナ侵攻は、三〇〇〇キロ以上も国境を接するモンゴルにも大きな

## モンゴルとロシア

足かせになつてゐるという事実を目の当たりにしました。ロシアをとりまく現状としては、ロシアのウクライナ侵攻に国际社会は反対しています。三月二日の国連総会緊急特別会合では非難決議に賛成した国は一四一カ国、反対はロシア、北朝鮮、シリア、ベラルーシ、エリトリアの五カ国のみ、棄権三十五カ国でモンゴルは棄権でした。石油製品を完全にロシアに依存するモンゴルとしては隣国ロシアに批判票を投じることは不可能でした。しかし、そこからモンゴル国民の分断が始まりました。モンゴルにおいてロシアは、長い間最も重要な国とされていて、民主化以降の世論調査でも一貫しています。もちろん、そこには、最近米国調査機関が明らかにしたようにロシア政府の金銭的な工作の結果もあるでしょうが、モンゴル人からロシアを見るう面と、一九三〇年代を中心におどろき、蒙ゴルの首相や要人、僧侶など数万人がロシアによつて肅清された暗い過去に基づく恐怖心が存在します。今回は、ロシアのプロパガンダを信じ、ロシアに歴向かうことでは国家の存亡に係る危険なことであるというモンゴル人が圧倒的に多いように見受けられます。

他方で、一九九〇年の民主化運動に参加した人々や、その後海外留学を経験して自由民主主義の価値を崇拝する人々は、もちろん政府のこの決定には不満足です。批判派は戦争反対ウクライナ支援をアピールするデモを広場やロシア大使館前で行つてきましたが、徹底した警察官の阻止行動だけではなく、親ロシア派の妨害によつて平和的なデモも実施が困難になつています。私が、八月のモンゴルの滞在中に話したすべての人が内心で

はロシアに批判的でしたが、それを表立つて言えない苦しも垣間見えました。

また、九月三日には、ロシアのボストーク二〇二二一という軍事演習にモンゴル軍が参加したことに抗議する集会がロシア大使館前で実施されました。この演習は、もちろん日本を仮想敵国にしたものでした。これにモンゴル軍が参加したこと、日本との友好関係を重視する市民が集まつて抗議活動をしましたが、最後は警察に阻止され、大型バスターなどは破られてしましました。

この時も参加者は、日本の旗だけでなくウクライナの国旗も掲げていました。軍事演習への参加に反対するのであればモンゴル政府の建物に行くべきで、ロシア大使館ではないのではないかという疑問が生じましたが、彼らがウクライナ国旗を掲げていること

日本を仮想敵国にしたものでした。これにモンゴル軍が参加したこと、日本との友好関係を重視する市民が集まつて抗議活動をしましたが、最後は警察に阻止され、大型バスターなどは破られてしましました。

実は、同じようなことが隣国中国との関係で起こっています。今年、モンゴル人のNSに「中国モンゴル平和統一連盟」という組織の人たちがスフバートル広場で写真に写っているものが流れ、彼らが中国人であつたことから、これを批判するキャンペーンを開始した人がいました。

モンゴルの独立を否定する団体の活動を批判することは

います。ロシアのウクライナ侵略では、国民が憲法で保障された言論の自由、表現の自由、集会の自由という基本的権利が行使できなくなっています。つまり、モンゴル政府にとってロシア関係の円満な処理はモンゴル憲法以上にモンゴル国の存立にとって重要なことを意味します。

中国との関係では、中国のモンゴル大使館の大使室の改修で盗聴器が出て来た時に、モンゴル政府は中国政府が謝るまで関係を断絶するという強い意志表示をしてきましたし、ダライラマのモンゴル訪問も二〇一六年まで中国政府の抗議にもかかわらず受け入れてきました。しかし、二〇一六年に強烈な中国の対抗措置を受けて、ダライラマの再訪を受け入れないことを約束しました。

最近のロシアや中国との関係をみていると、巨大な隣国に挟まれたモンゴルという国

極めてまともな愛國者だと思いますが、なんと、当局は中国人を取り調べるどころか、大使館から報酬をもらいスペイ活動をしていたとして逮捕してしまったのです。この例も、中国との関係がモンゴル憲法以上の力をもつていています。

中国との関係では、中国のモンゴル大使館の大使室の改修で盗聴器が出て来た時に、モンゴル政府は中国政府が謝るまで関係を断絶するという強い意志表示をしてきましたし、ダライラマのモンゴル訪問も二〇一六年まで中国政府の抗議にもかかわらず受け入れてきました。しかし、二〇一六年に強烈な中国の対抗措置を受けて、ダライラマの再訪を受け入れないことを約束しました。

最近のロシアや中国との関係をみていると、巨大な隣国に挟まれたモンゴルという国

で一旦は芽生えた自由や民主主義というものが、変質していく姿が見えてきます。しかし、九〇年の民主化以降モンゴル人が体験してきた自由といふことを一部の若者の行動から実感しています。

周囲を海に囲まれた日本がいかに平和で恵まれていているかを痛切に感じます。日本は、この自由や平和が付与のものとして永遠に続くと思つてゐる人が、特に若者では圧倒的に多いと感じますが、日本といえども国際社会の中で生きており、理不尽と思われることもあります。だということを、ウクライナへのロシアの侵略から学ぶ必要があるのではないかと思います。